

NIPPPO
執行役員北信越支店長

中西^{なかにし} 功二^{こうじ}氏

支店長



能登の復興、支店挙げて

「『確かなものづくり』をう。

安全第一と同じ位置付けで進める」。インタビューの中で何度も繰り返した。企業理念の「確かなものづくりを通して豊かな社会の実現に貢献する」に自身が仕事を通して得た経験を加えた言葉だとい

「『確かなものづくり』をう。前職は北海道支店舗装事業部長。その前は関東第二支店に30年近く勤務。海外も2回経験した。

北信越支店は新潟、富山、石川、長野の4県を管轄する広域エリアを担う。最重要事

項には、2024年1月の能登半島地震、同年9月奥能登豪雨の被災地における復旧・復興への取り組みを掲げ、「石川・富山統括事業所を支店の総力を挙げてバックアップし、復旧・復興に貢献したい」。

また、「被災地では当社開発のHRB（地震対策型段差

抑制）工法が既に採用されており、その効果を積極的に発信していきたい」と加える。

「被災地の復旧・復興以外では、北陸地方整備局や東日本、中日本高速道路会社に注力するのはもちろんのこと、民間工事の受注にも力を入れる。案件は大都市圏に比べると少ないが、受注確保に向け当社の組織力と、技術力を持つて対応する」。

若手社員のスキルアップ、ICTに代表される省人化施工技術を活用した働き方改革にも力を入れる。

（4月1日就任。東京理科大学理工学部土木工学科卒。趣味はギター演奏。さいたま市出身、59歳）



なかのし
中 西 功 二 氏

支店長席



確かなものづくりで社会貢献

北信越支店の勤務は初めて。かじ取り役を担う立場として「安全第一はさることながら、当社の基本方針である『確かなものづくり』

NIPPPO
執行役員北信越支店長

で品質を確保し、今後とも社会に貢献していく」と抱負を語る。

最重要事項には、「令和6年能登半島地震」「令和6年奥能登豪雨」からの復旧・復興を掲げる。

そのためには、「石川・富山統括事業所だけでなく、当支店の総力を結集して復旧・復興に貢献したい」との考えを示す。

被災地では同社開発のHRB

(地震対策型段差抑制)工法が既に採用されており、「その効果を積極的に発信していきたい」と加える。

担い手の確保では、技術系社員の採用を学部不問として門戸を広げる。育成にも注力し、「若手社

員のスキルアップを後押しする」という。ICT活用と組み合わせること

で、生産性向上への相乗効果が得られるほか、「やりがいの向上にもつながるのでは」とみる。

週休2日制や長時間労働の是正、男性の育児休暇の取得などの働き方改革も推進していく。

支店管内の社員に対しては、「悩みごとや課題を一人で抱え込まずに、まずは社内の皆で情報共有し、解決策を探してほしい」と求める。

1992年3月東京理科大学工学部土木工学科卒業、同年4月日本舗道(現NIPPPO)入社。北海道支店舗装事業部長兼建築部長などを経て、4月1日から現職。モットーは「積土成山」。趣味はギター演奏。埼玉県出身、59歳。